



「複式学級での授業」

津布田小学校では、4月から3・4学年を1つにした学級がスタートしました。

7月11日の算数の授業、4年生は算数リーダーさんの「79ページを開いてください。1番からやりましょう。」という言葉でスタート。同じ時間、3年生は先生と一緒に暗算の学習をしました。先生が2つの学年を行き来しながら、タイミングよく指導。リーダーさんは教室に掲げられた「今日の学習の進め方」を見ながら、上手に指示を出していき、発表や答え合わせがどんどん進んでいきました。3年生からは、「みんなで意見を言い合って、答えを見つけていくのが楽しいです。4年生は偉いと思います。」、4年生からは、「自分たちの学習に集中してやっています。楽しく発表もしています。3年生は一生けんめいで、上手に学習を進めているなと思います。」などの声が聞かれました。



▲2カ所で始まる算数の授業

【問い合わせ先】学校教育課（☎82-1201）

観光ガイド 山陽小野田 検定クイズ

わがまち「山陽小野田」のことをみなさんはどれだけ知っているか、問題にチャレンジしてみてください。

Q49

竜王山を桜の名所にするきっかけをつくった木戸の住民、酒井常松が竜王山に建立していないものは、次のうちどれでしょうか？

- ①薬師如来像 ②大日如来像
- ③抱山擁水の碑

Q50

寝太郎権現像は1年に2回開帳されます。それは4月29日の「寝太郎まつり」と次のうちいつでしょうか？

- ①4月5日 ③4月25日
- ②4月15日



※解答と解説は9月1日号に掲載します。

前回の解答と解説

A47. ①津布田の火の山

とび 烽(狼煙)場は、飛鳥時代、唐・新羅連合軍の侵略に対する防備策として各地に置かれたとされ、竜王山は、津布田の火の山から合図を受け、宇部岬へと伝えていました。

A48. ③福原 越後

福原越後は、徳山藩8代藩主毛利広鎮の6男、毛利勅子は7女として生まれました。

山陽小野田観光協会（観光課内 ☎82-1151）

理大つうしん No.68 Tokyo University of Science Yamaguchi

<http://www.yama.tus.ac.jp>

シンポジウム「地域における大学のあり方を考える」

6月26日、塚本恒世学長、本学卒業生で小野田青年会議所直前理事長の吉田司司氏、宇部青年会議所理事長の蔵田晃一氏をパネリストに迎え、シンポジウム「地域における大学のあり方を考える」を開催しました。

塚本学長は「地元を愛する若者が地域の大学で学び、地域の企業に就職し、地域社会の中心人物へと成長する流れができれば、地域も活性化するし若者の定住も促進される」と本学の掲げる「地域のキーパーソン育成」の重要性を力説。その一方で、「行政は大学生が住みやすい街、将来定住したいと思わせる施策が必要ではないか」「地元企業には地元の学生を積極的に採用してほしい」と述べ、産学公が三位一体となって課題

を解決することが必要であると強く訴えました。

吉田氏は、会社経営者の立場から、理系の知識をもつ営業職などのオールマイティーな能力を持つ人材の強みを紹介。また、社会のことを知る勉強も大切だと指摘し、大学が学生に対し外部に目を向ける機会をつくるよう期待しました。また、蔵田氏は、理系の大学の研究シーズに着目。大学が企業との共同研究を提案し、カリキュラムの中で学生を参画させれば大学の価値も高まるとし、企業との連携強化を推奨しました。

シンポジウムには、学内外から150人が聴講。パネリストの多角的な視点からの意見や提言に、熱心に耳を傾けていました。